

湖東普及だより

H28
夏号

編集発行 滋賀県湖東農業農村振興事務所農産普及課（発行責任者：林 吉一）
湖東農業普及指導センター
〒522-0071 彦根市元町4番1号
TEL：0749-27-2228 FAX：0749-23-0821 E-mail：ga32@pref.shiga.lg.jp
ホームページアドレス：http://www.pref.shiga.lg.jp/hikone-pbo/nogyo/

小麦「ふくさやか」の新しい施肥体系

遅れ穂の発生が多くなった

管内には約1,000haの小麦「ふくさやか」が栽培されています。近年、小麦の生産者から「遅れ穂が多くなった」との声が聞かれるようになりました。「遅れ穂」が発生すると、収穫時に未熟粒が健全粒に混じり品質の低下を招きます。

そこで農産普及課ではJAと協力し、平成26・27年産小麦の施肥改善試験を実施し、新たな施肥体系による「遅れ穂」の発生抑制効果を検証しました。



26・27年産小麦の試験の概要

| 施肥体系 | 基肥 | | 追肥(12月下旬) | | 穂肥(3月上旬) | | 実肥(4月下旬) | | 全窒素量(kg/反) |
|------------|---------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|------------|
| | 肥料名 | 施肥量(kg/反) | 肥料名 | 施肥量(kg/反) | 肥料名 | 施肥量(kg/反) | 肥料名 | 施肥量(kg/反) | |
| 慣行「基肥+実肥」 | 麦パンチ | 40 | — | — | — | — | 硫安 | 20 | 17.0 |
| 慣行「4回施肥」 | PKセーブエコ | 30 | PKセーブエコ | 20 | NK-C20号 | 20 | 硫安 | 20 | 15.2 |
| 3回施肥 (H26) | PKセーブエコ | 30 | PKセーブエコ | 20 | 緩効性肥料 | 30 | — | — | 14.5 |
| 2回施肥 (H27) | 緩効性肥料 | 30 | — | — | 緩効性肥料 | 30 | — | — | 15.0 |

管内では、省力化できる基肥+実肥施肥体系とともに、従来の4回施肥体系（基肥+追肥+穂肥+実肥）が普及しています。

平成26年産に慣行の4回施肥体系の後半の「穂肥と実肥」にあたる肥料を緩効性肥料に変更した試験を実施したところ、「遅れ穂」の発生を抑制できることが確認できました。

平成27年産では、さらに施肥回数を削減するため「基肥と追肥」にあたる肥料を緩効性肥料に変更し「緩効性肥料の2回施肥体系」としたところ、この施肥体系でも「遅れ穂」の発生はなく、収量も通常の4回施肥体系と同等でした。

やさしさで だれかを笑顔に できるんだ！

(彦根市 はーとふるメッセージ 2015 入賞作品)

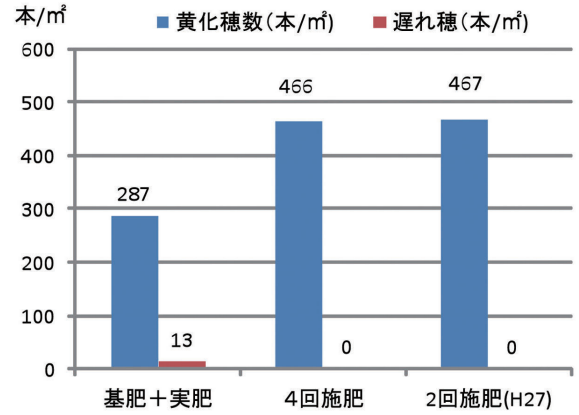
平成29年産小麦からは「緩効性肥料の2回施肥体系」で

この新しい「緩効性肥料の2回施肥体系」は、遅れ穂の発生を抑制できるだけでなく、田植作業と競合する実肥を省略することもでき、実用性が高い施肥技術です。また「同じ肥料を同じ量で基肥と穂肥に施用する」という分かりやすさも特徴です。平成28年産小麦では、2回施肥体系の確認実証を行っています。この結果も含めて肥料コストや労力面を検討し、平成29年産小麦の施肥体系の改善を進める予定です。

収量・タンパク質含量の結果

| 施肥体系 | 収量(kg/10a) | | タンパク(%) | |
|------------|------------|-----|---------|------|
| | H26 | H27 | H26 | H27 |
| 慣行「基肥+実肥」 | 408 | 308 | 14.8 | 14.4 |
| 慣行「4回施肥」 | 416 | 451 | 12.9 | 12.7 |
| 3回施肥 (H26) | 502 | — | 10.4 | — |
| 2回施肥 (H27) | — | 450 | — | 12.8 |

※収量は坪刈り収量



果樹の人気品種を栽培しませんか

国の試験場をはじめ、全国でいろいろな果樹の新品種が育成されています。本県で有望な2品種を紹介します。

人気NO1 ブドウの「シャインマスカット」

超高級ブドウ「マスカット・オブ・アレキサンドリア」を親にもつ、大粒で食味良好なブドウです。果皮色は黄緑色で、肉質が崩壊性で硬く、ほのかなマスカットの香りがあります。

・果皮が厚くない上に渋みがないため、皮ごと食べられるという特徴があります。ジューっと甘い果汁感がたまりません。

・「巨峰」と同様、裂果がなく脱粒しにくく、日持ちが長いという特徴があります。



全国的に人気が高く苗木の入手が困難なこともあります。

手間のかかる渋皮むきから解放 クリの「ぼろたん」

今までのニホンクリは、おいしくても、渋皮がむけ難くて調理が大変でした。そんな悩みを解決したのが「ぼろたん」です。

・調理は果実を半分に分けるか切れ目をいれて、95°Cのお湯で3分間ゆでるだけで、甘栗に使われるチュウゴクグリ並に、簡単に渋皮をむくことができ、手は汚れません。

・渋皮をむいた後は、そのままくりご飯や菓子などの調理に利用できます。さらに、果実は30gと大きく、果肉の色は黄色で、甘くて香りもあり、美味しい品種です。



ぼろたん

筑波

水田野菜のすすめ

水田野菜は本当に儲かる？

湖東管内では、稲・麦・大豆を基幹とした土地利用型農業が中心であり、近年の米価下落により担い手農家の農業所得が減少しています。

このような状況のなかで、キャベツやブロッコリー、ナバナ、タマネギといった水田での野菜栽培に取り組む経営体が増加してきています。土地利用型農業経営に水田野菜を導入し複合経営を目指す場合、栽培開始前に農業の経営者として考えておかなければいけない点を紹介します。

適正な栽培面積は？

自らの経営をしっかりと把握し、水田野菜でどのくらいの利益を目指すのかを考えておく必要があります。例えばキャベツ10～20aの取り組みでは、ほ場利用や生産資材、各作業の効率が悪く、結果的に所得がほとんど上がらないというケースが見られます。キャベツで100万円の所得を上げようと思うと1ha程度の取り組みが必要です。導入当初は小さな面積でしっかりと栽培の技術や作業を把握し、今後目指す栽培面積を考えておきましょう。



大規模なキャベツ栽培

水稲との労働力競合は大丈夫？

キャベツやブロッコリーで最も労働力のかかる収穫・出荷は冬期ですが、水稲の収穫時期と重なる定植から生育前半も雑草・病虫害防除や追肥に労力が必要です。この時期の作業がおろそかになると、目標収量が確保できないため、作業計画を事前にしっかりと立てておきましょう。



害虫の食害を受けたキャベツ

水田野菜に必要な機械は？

大規模にキャベツやタマネギを栽培する場合は、移植機が必須になります。また、防除作業を定期的に行う必要があるため、防除機、できれば乗用管理機（ビークル）があれば大幅に省力化が図れます。さらに、省力化のためには、畝立成型機、運搬車なども必要となります。栽培時期によってはスプリンクラーなどの灌水装置があると干ばつ時に効果を発揮します。これらの機械化について経営的な試算を行い、導入や借入計画を立てておきましょう。

JA東びわこでは、移植機（キャベツ、ブロッコリー、タマネギ等）、畝立成型機、タマネギ収穫機などを共同利用機械として貸し出されていますので、これらを有効に活用しましょう。また、定植苗の販売（育苗）もされています。



乗用半自動移植機

収量確保がいちばんの成功の道

水田野菜を成功させるためには、目標収量を確保することが第一です。そのためには、ほ場の選定や排水対策、適期作業等、基本技術の徹底が重要です。取り組みを検討される方は、当課またはJA東びわこにご相談ください。

※各品目の栽培や経営収支等の詳細はJA東びわこ発行の「重点園芸品目栽培設計書」をご覧ください。

(新) 指導農業士紹介！！

平成17年に「(有)びわこ農産」を設立し、経営基盤の強化と安定した雇用による規模拡大、経営の安定化を図られている西田拓夫さん

平成28年度新たに指導農業士として知事認定を受けられ、農業青年の育成指導にご活躍いただく西田さんを紹介します。

西田さんは、彦根市田附町で水稻・麦・大豆を中心に経営を展開され水稻や大豆ではその95%で環境こだわり農産物に取り組みられています。

農業青年の育成に当たっては、単なる雇用だけにとどまらず、従業員の青年にも湖東地区農業後継者クラブに加入するよう働きかけ、農業経営や技術の研鑽と仲間づくりによる後継者育成に配慮されています。

また、人を指導するうえで「少し楽しめるように工夫する」ことで、良い方向に導くことができるとの思いを胸に、指導者になる事を目指していきたいと考えておられます。

今後の西田さんの活躍に期待します。



農業大学校で農業を学びませんか！！

滋賀県立農業大学校(専修学校)では、本県農業を担う優れた青年農業者等を養成する「養成科」と就農に必要な技術と知識を修得するための「就農科」があります。

昭和44年の開校以来、1,116名が卒業し、就農や農業法人への就職、JAや機械・資材・種苗などの農業関連企業、市場卸売り会社などで活躍しています。

オープンキャンパスも、平成28年7月2日(土)、同9月3日(土)に行われます。

詳しくは同校(0748-46-2551)または農産普及課までお問い合わせください。



各科の願書受付期日 (※定員に満たない場合2次入試あり)

| | 養成科(修業2年) | | 就農科(1年間) |
|--------|----------------------------------|------------------------------|----------------------------------|
| | 推薦入試 | 一般入試(1次※) | |
| 募集人数 | 20名程度 | 10名程度 | 10名 |
| 願書受付期間 | 平成28年 10月3日～10月18日 | 平成28年 11月22日～12月6日 | 平成28年12月12日 ～平成29年1月13日 |
| 応募資格 | 滋賀県内在住で平成29年3月高等学校卒業見込みの者で成績優秀な者 | 高等学校を卒業した者および平成29年3月卒業見込みの者等 | 20歳以上65歳未満 県内で農業経営を行うことが確実な者等 |